

第4号

北見商工会議所青年部広報紙



トライ

平成十四年度 北見商工会議所
青年部 会長 舩川 誠



平成十二年に創立をされた北見YEGも三年目を迎え、少しずつではありますが、対外的にも認知されるようになってきました。そして十四年度新たな体制でスタートをさせて頂くわけですが、我々を取り巻く経済環境は、依然として深刻な状況下であり、自企業の経営だけで目いっぱいが本音のメンバーも多いことと思います。このような中で、YEGの本来の役目とは何なのか、北見YEGは将来に向けてどう進めばいいのか、メンバーにとってどうあるべきなのか、じっくりと考えていきたいと思えます。しかし、メンバーが共に夢を語り合い、共に未来を考え、共に情熱を持って行動していくことが、個々の会員の成長そして地域経済の発展に繋がって行くものであると確信しております。相互研鑽・内部交流・組織の充実をさらに進めつつ、新たな出会いを求め会員の増強にも努めなければなりません。会長として精一杯頑張りますので、皆様のご支援とご協力を宜しくお願いいたします。



2002年

4月



北見商工会議所青年部

北見商工会議所青年部事務局 〒090-8710 北見市北3条東1丁目 北見経済センター内
TEL.(0157)23-4111・FAX(0157)22-2282 E-mail syokokac@sokhotsk.or.jp

平成十四年度 副会長・事務局長・直前会長挨拶



副会長 竹内 穂昌
この度、会員の皆様方の推挙をい

ただきまして、商工会議所青年部副会長になりました竹内穂昌です。副会長をさせて頂いたことは私にとってこの上もなく光栄なことでありますが、逆に、その責任の重大さを深く痛感いたしております。私は会員としての経験は浅く、微力短才ですが、人格、識見ともにすぐれた会長のもとで、先輩、同僚会員の皆様方のご支援をいただきまして、私なりに一生懸命にやらせていただくとともに、また併せて親睦部会も担当させていただくことになり、皆様方のご協力をいただきまして、青年部の絆をより深めるため全力をつくしたいと考えております。よろしくご指導ご鞭撻のほどお願いいたします。



副会長 西村 清一
この度、北見商工会議所青年部の

副会長という大役を仰せつかり、身の引き締まる思いと責任の重さを痛感しているとこ

ろでございます。当青年部が発足して一年半が経とうとしていますが、私自身まだまだ理解をしていない部分多々あるように感じております。これは、私だけではなく、もしかすると多くのメンバーが感じている事なのかもしれません。だとすれば、会員である事のメリットを多くのメンバーにお伝えをしていかなければならないと考えております。本年度、総務広報委員会担当副会長として委員会と充分コミュニケーションを取り、貴方にとってYEG会員であるメリットは？「この問いかけに答えられる様に組織の運営を計り、会員相互の連携を強化し、自社企業発展を目指した各活動の支援と情報提供に努めていきたい。また、YEG活動を広く一般に知っていただき、当青年部の主旨に賛同いただける仲間を募り組織の充実を図って行きたい。この二点を重点目標として委員会と共に活動をしていきたいと考えております。手探りの状態ではあります。この一年半ご苦労をされた役員の方々の意を引き継ぎ邁進していきたいと考えております。つきましては、委員会メンバー初め、全メンバーの絶大な協力とご支援を賜りますよう宜しくお願いいたします。



副会長 村井 雄剛
青年部設立年度の春、鈴木前会長

との人事を賭けたゴルフ開幕戦に敗れ囚われの身となりましてから早いもので一年半が経過しました。入会はもとより事務局長職を強制され！いや務めさせていただきまして。その間会員各位のご協力のもと無事一期経過したところであります。その安堵も東の関、次期役員の方策を個人的に失敗し気がつく副会長となっておりまして。経過はともあれ青年部の当初の目的は自分なりに達成されたかなと勝手に思っています。まだまだ「青年部は、こうなって欲しいな」と思うところしきりであります。会員各位との対話をとおして少しでも魅力ある組織作りができたらと考え今期を過ごしたいと思っております。どうかよろしくお願い申し上げます。



事務局長 松原 英行
今年度、外川会長より事務局長を

拝命し、また總會において

承認を賜り誠に有難うございました。非常に荷が重い訳であります。設立時からの居残り役員として二年の任期をまっとうすべく全力をそそぐ所存でございます。二月の久留米会議での報告で、全国各地のYEGはさまざまならずばらしい事業を展開しております。

北見YEGは二期目に入り組織・個人の目指す所もさらにステップアップしてゆかなくてはならないと思っております。そのためには、委員会・例会等、会員の皆様がスムーズに活動できますよう、五十嵐事務局次長、酒井事務局と力を合わせ会の運営に邁進してまいります。どうぞ宜しくお願い致します。



直前会長 鈴木 達裕

一年半を振り返って

二〇〇〇年十月十六日設立以来、初代会長として重責を担わせて

ただいた会長職も三月三十一日をもって、舛川二代目会長にバトンタッチする事となりました。私にとって、長いようで短い一年半であったような気が致します。私は北見商工会議所青年部を設立するにあたり、「商工」という文字を「商は商売」、「工は工夫」、即ち、この新しい時代を生き抜くため

に、仲間達と勉強し、語り合う事で、「自分達の商売の工夫」ができないものだろうか、いや、するべきであろう、そんな思いで青年部を設立し、一年半活動をまいりました。しかしながら、私のリーダーシップの無さで、会員の皆様にご満足いただけような一年半であったかどうかは皆様にご判断いただければと思います。顔と名前は知っていただけ、顔と名前を知らなかった北見に住む六十数名の人間が青年部で出会い、語り合い、酒を酌み交わすことができた事に対しては、多少なりともプラスになったと思っております。私自身、本当に良かったと感じております。

この一年半の反省事項は、次期の舛川会長に修正をお願いさせていただき、さらには、会員の皆様には、より一層の青年部に対する協力をいただきます。この一年半、いきなり指名をさせていただいた理事の皆様、私のつたない運営にお付き合いただいた会員の皆様、心よりお礼を申し上げます。同時に、次期舛川会長に今までの以上のお力をお貸しいただけます事を心よりお願い申し上げます。一年半、と今後のお願いの挨拶とさせていただきます。一年半、たいへんお世話になりました。事に心より感謝申し上げます。ありがとうございます。

平成十四年度 委員会抱負



研修委員会委員長 長南 進一

研修委員会この一年間の大きな目標は、「厳しい経済情勢を生き抜く知恵と勇気」と確信を会員に提供すること(委員会方針)です。デフレという誰も経験したことのない経済状況の中で、これを生き抜く方法論や確信を得るということとはとても難しいことではありません。しかし、誰もがそれを得たいと強く渴望していることがひしひしと伝わってきます。研修委員会としてもこの思いに応えたい、手応えのある例会にしたということ、新しい試みに挑戦してまいります。それが「会員講師例会」であり、「異業種交流の場の提供」です。青年部はそれ自身が優れた異業種ネットワークです。それぞれの会員が持っている情報、知恵や発想やノウハウを出し合うことにより、今まで気づけなかった何かに気づく、そんな成果を期待しています。そこから新しいビジネスチャンスが生まれるかもしれません。しかし、もつと重要なことは、互いに啓発し、啓発されあうことだと思っています。危機意識は誰もが持っています。そこから一歩進んで「共に生き抜く」と、「力を出し合おう」という共通認識が生まれれば、それだけで企業経営にも前向きな力が蘇るのではないのでしょうか。



親睦委員会委員長 中川 勝一

我々、商工会議所青年部は発足2期目を向かえましたが、「いまだに顔と名前が一致しない」出席率が、「な」と言う問題点を抱えているのが現状かもしれません。親睦委員会としてまず取り組みなくては

はならない事は「より一親睦を

深め、さらなる仲間意識を芽生えさせること」に尽きるのではないかと考えております。親睦委員会の立場上、「お酒の席」ということになるかもしれませんが、その中で芽生える連帯感に期待し、有意義な企画を行えば、と考えています。具体的案としては「例会後の独自のなおの企画・声かけ」などの話が出ています。全体のなおの無い例会の際は親睦委員会が音頭をとり企画してはどうかと思うのですが、企画してはどうかと思っております。また「サークル活動」「他青年部との交流」も親睦委員会の重要な役割であると考えています。会員の方々に有意義だと感じていただける活動を行っていただきたいと思っております。新しい「親睦委員会」全員が一丸となり、今まで以上に活発な活動をしていただくとお願い申し上げます。



総務委員会委員長 坂野 裕樹

設立3年目を迎え、北見YEGの活動がいよいよ真価を試される時期に、理事として総務委員長という重責を与えられたことに大いに意欲を燃やす反面、苦悩する事も多い2年間という長いスパンをどう乗り越えようか?なんて考えております。最近どうも頭の思考回路にYEGの領域が割り込んで住み着いてしまったようで真面目な性格のせいかな、結構真面目に取り組んでいる自分に嫌な気はしていません。これも、どこか私の性格を見抜いていたN担当副会長の魂胆だったのでしょうか?なんて思ったりもして「適当にやりましょう!」ほど怖い言葉はない。あいつ、手抜いてるな!」なんて言われぬよう精一杯がんばって役割を全うして行こうと思っております。2年間で、北見YEG総務広報としての務めと方向性を見つけて出す事ができればと思っております。高岡、長谷川副委員長をはじめ委員会メンバーには大変お世話になりましたが、ご協力宜しくお願いいたします。

新人会員紹介



伊東隆志 市北四條東四丁目にて親子

で税理士業務を行っていらつしやいます。血液型はA型で日本人に一番多いタイプで星占いは双子座、人に冷たい印象を与えるらしいことと動物占いが「象」で、大きな耳を持つ割には人の言うことを聞かないらしいと云うことを妙に気にしておりました。ロマンチストなのでしようか?昭和五三年北斗高校を卒業後札幌国税局に採用となり札幌中税務署にて滞納者から税金を徴収する仕事で振り出たので、所轄が「すずきのママさん」の折衝が多かつたとのことです。またその頃小樽の夜学(短大)に通学されてたので飲み過ぎで、花園町あたりで飲み過ぎして終電に間に合わなかつた等エピソードも相当おありのようです。その後、所得税・法人税の調査を経験し、平成七年に東京国税局に配属されましたが、皆さんご存知の「マルサ」ではなくて、大規模法人を調査する調査部に住宅専攻などを通じて日本の財政に貢献されていらしたそうです。モットーは「熱き心と沈着冷静」と云う事です。青年部でも熱く語る姿が見られそうです。これからが楽しみです。お酒の方は非お誘い合わせの上、「すずきのママさん」の武勇伝等お聞きになつては如何でしょうか。



三上秀範 急インの営業の仕事をしておられます。

一口に営業と言っても企画・宣伝や広報も担当されており特に三・四月は歓送迎会や結婚式の運営、また新年度に向けての新企画等毎日遅くまで無茶苦茶忙しくて飲みに出る時間が少ないとこぼしておられました。ところで三上会員は紋別の出身で西村会員の一年先輩だそうですが、三上さんの弁に拠ると「僕は真面目な高校生活を送っていたせいか高校時代の面識は無かつた」との事です。どちらが真面目かは別にして、趣味は仕事みたくいなネオン酒で、ほぼ毎日大仲間で脂い食を食べて愚痴をこぼしているそうです。暇な方は顔を出してみても如何。尚、最後に会社の宣伝として「この四月より東急ホテルズとして全国六十のホテルチェーンに生まれ変わります。北見は当然の事ながら全国の予約もドンとお任せ下さい。」と語ってくれました。



小村忠義 一ジェントサースで、あの有名なアリコジャパンの営業をしておられます。お生まれは留萌管内の羽幌町で、大学時代を札幌で過ごされました。

大学時代は劇団に所属したり学習塾の講師や焼き鳥屋さん・ホテル等々いろいろアルバイトを経験し、調理師免許をお持ちになる等マルチな才能を発揮されていたとの事です。北見に来られたのは五年前だそうですが、人と話をする営業の仕事がどうしてほしいと、昨年転職を決意された今の職場に入社されたそうです。北見の第一印象は「雪が少なく、雪かきをしなくてすむ!」と故郷の事を思い浮かべながらの印象だったそうです。今回入会のきっかけは「会社の中西社長の勧めがあり自分自身も多くの人と知り合い、多くの友人を作るチャンスと即決しました!」と話を聞いて目がキラキラと輝いている好青年です。小村さんは現在二十八才、これからの北見のため、そして自分作りのため、活躍を期待していますよ。



例会報告



研修委員会
十二月例会

十二月の例会は、犯罪が多発する師走という時期を考慮してテーマを決定しました。

「犯罪の情勢及び不当要求行為対策について」企業としてまた個人としても、犯罪に巻き込まれないためには、どのようなスキ対策が必要なのかを会員各位に知っていただくことを目的といたしました。

北見方面警察署へ講演依頼をいたしましたところ、知能犯・暴力犯を担当している捜査第二課が適当でしようとのご指示をいただき、同課課長の高松警部にご協力を頂き開催の運びとなりました。講演内容は、現在の一般的な犯罪の状況、現在知能犯の企業に対する犯罪についてビデオ放映を交えた分かり易いものでした。

北見商工会議所青年部

北見商工会議所青年部は、地域社会の健全な発展を図る再工業化推進の一環を担い、次代への先導者としての責務を自覚し、地域の経済的発展の支えとなり、新しい文化創造をもつて豊かで活気あふれる地域づくりに貢献する。

- 目的
- 一、地域を主とする青年リーダーとして先導者たる覚悟で研鑽に努めるよう
 - 一、国際社会の一員であるべき国際人としての教養を高めるよう
 - 一、豊かな心を養うために、創造と工夫、寛容と理解を促すよう
 - 一、文化を伝承し、新しい文化の創造に努めるよう
 - 一、行動こそ時代を先導するべき青年の責務と自覚し、力を合わせる仲間とならう

親睦委員会 一月例会



平成十四年一月十五日(火)
北見ロイヤルホテルにおいて午後六時三十分より北見商工会議所青年部の一月例会が開催された。

二月の例会に「これからの企業経営」というテーマを寄与したい」というテーマは簡単に決まりました。ただ、予算の範囲内でこのような内容の講演を依頼できる講師がどこにいるのかが最大の問題でしたが、松原事務局次長のご尽力で日本経済新聞社の北海道支社長が実費程度で講師として来北していただけることになりました。最大の問題については一応解決いたしました。

ここで、大物講師の低価格での登場で青年部内だけの例会という形式ではなく、異例のオープン形式の例会にせざるを得ない事態となりましたが、鈴木会長と村井事務局長が商工会議所との調整を担当してくださり、無事に例会が開催されることになりました。さすがに講演の内容は素晴らしい、聴講された方は、「これからどうすべきか」という難問について、ある程度の成果を得られたものと確信いたしました。

研修委員会 二月例会



二月の例会に「これからの企業経営」というテーマを寄与したい」というテーマは簡単に決まりました。ただ、予算の範囲内でこのような内容の講演を依頼できる講師がどこにいるのかが最大の問題でしたが、松原事務局次長のご尽力で日本経済新聞社の北海道支社長が実費程度で講師として来北していただけることになりました。最大の問題については一応解決いたしました。

研修委員会の活動は、今年最後の親睦委員会の活動であることの再確認をする。鴨下公一北見商工会議所会頭より来賓代表のご挨拶、例会セレモニー終了後の午後七時、田丸月香北見商工会議所女性会会長より乾杯のご発声を頂き宴会に入る。余興ではこ来賓の皆様が青年部特性のミックスジュースを飲ませていただき、次年度以降に不安を残す(来年もまた来て頂けると...)その後、委員会対抗ビールのトーロ早飲み、北見商工会議所を主なネタとして〇×クイズ、さらにビンゴゲームとたくさんのお言葉を中神鉄三郎北見商工会議所副会頭より頂き、年に一度の集合写真の撮影を行い盛況の中閉会しました。

総務広報委員会 三月例会



平成十二年、十三年度の総括例会をおこないました。三委員会よりその活動を振り返り、評価と今後の展望を語っていました。

だきました。どの活動もそうであるように、ひとつの例会を開催するためには、知らざる苦労や気配りがあるのだということをおぼろげに感じました。村井事務局長より全体のまとめがあり、「批判的ではなく、前向きな発言ばかりであった」との言葉が印象的でした。本例会をもって卒業する渡部・太田両会員のコメントを新井・富樫両名が取材し、発表しました。出席コンテスト・例会コンテストの結果は以下の通りです。委員会は以下一位総務広報、親睦、研修の順。個人の部一位千葉秀俊会員。全体の平均出席率は約五十七％でした。例会コンテスト、一番ためになった例会救急講習。一番印象に残っている例会、もう一度やってほしい例会、そば打ち例会となりました。直会の最後、全員で輪になった時、一体感が印象深く一年半の歳月の重みを感じました。

サークル報告

第二回青年部麻雀サークルを三月十五日に開催しました。年度末の忙しい時期とかさなり、参加人数も少なく中止も考えましたが、「是非やろう」と言う一部の熱い思いをうけ、二卓八名という少人数ながら和氣藪々とおこなわれました。参加いただいた会員の皆様、差し入れをいただいた鈴木会長、わざわざ応援に駆けつけて下さった坂井監事に併せて御礼申し上げます。結果は次のとおりです。

編集後記

全国的に暖かい日が続いており、今年の春の訪れも早く桜の開花が早いスピードで北上しております。しかし、世の中暗い話題多いようです。北海道経済では相変わらず見通しの悪い状況が続いており、大荒れの政界では、毎日ニュース、新聞等で大きく取り入れられているところですが、会員の皆様におかれましては、これから公私ともに順調に進んでいくことを願っております。最後に「Try」第4号発行に際し、取材・原稿等でご協力いただき誠にありがとうございました。

- 優勝 小原 義広
準優勝 千葉 秀俊
第一位 塩野谷源一
第二位 齋藤 正仁

総務広報委員 尾崎 弘昌